

保育者養成課程の評価に資するベンチマークの開発 — 短期大学生調査を用いた分析から —

山 崎 慎 一

桜美林大学グローバル・コミュニケーション学群

Developing the Benchmark Standard to Evaluate the Early Childhood
Education Program in Junior Colleges Applying the
“National Survey for Junior College Students”

YAMAZAKI Shinichi

College of Global Communication, J. F. Oberlin University

キーワード：短期大学生調査、ベンチマーク、プログラム評価、基準範囲

1. はじめに

本研究は、一般財団法人大学・短期大学基準協会の事業として、短期大学の自己点検・自己評価のために実施している「短期大学生調査」の結果を用い、保育者養成課程を持つ短期大学の現状把握と改善を支えるベンチマーク指標を開発するものである。「短期大学生調査」は、学習経験や学習成果、進学理由、学習時間、満足度などの質問項目から構成され、短期大学生の間接評価に基づき行われるものである。全国の短期大学を対象とし、希望する短期大学に対し短期大学生一人あたり150円の費用で行い、2019年度は79短期大学から23,495名分の参加申し込みがあった。学習経験や学習成果を明らかにする全国調査としては、最も規模の大きい調査の一つとなっている。筆者は、この調査の分析チームの代表として開発当初より関わり、事業化後も引き続き研究協力等に携わっている。「短期大学生調査」自体は、2008年度より研究開発がはじまり、2014年度に現行調査の原型を開発し、その翌年に学科・専攻別集計をはじめ、2017年度より大学・短期大学基準協会の事業として実施され、10年以上の継続的な研究開発の蓄積を有する学生調査である。

短期大学及び大学における評価活動は、2002年の大学・短期大学の自己点検及び結果の公表の義務化と、2004年度の認証評価機関による評価の受審が学校教育法の改正によ

り定められ、現在では大学・短期大学の一般的な活動になっている。2018年度から、認証評価は第3サイクルに入り、内部質保証の実質化や学習成果の可視化が重視されるようになり、「短期大学生調査」のような学習成果を示すエビデンスの重要度は高まっている。

短期大学生調査は、全国の短期大学を対象に実施しているものであるが、本研究では保育者養成課程を持つ短期大学に焦点を当てる。保育者養成の質・量の双方に対する社会的需要は強く、短期大学においても最もシェアの大きい分野となっている。また、保育者養成課程を持つ教育機関に対し、その量・質の拡充が求められているのは周知のとおりである。保育士養成課程等検討会は、「保育士養成課程等の見直しについて～より実践力のある保育士の養成に向けて～（検討の整理）」を報告し、質の高い養成課程の編成と効果的かつ効率的な教育が実施できるよう見直しの観点や方向性を示した（保育士養成課程等検討会, 2017）。こうしたことから、保育者養成課程の更なる発展の必要性については、認証評価のような高等教育政策としてだけでなく、保育者養成課程や保育現場においても求められている課題と言える。

しかしながら、「短期大学生調査」をはじめ、種々の調査が大学・短期大学内で行われる一方で、評価関連業務量の増大化に伴ういわゆる「評価疲れ」も指摘されている（中央教育審議会大学分科会, 2016）。認証評価の第3サイクルにおいても、評価に係る業務負担の軽減について言及をされており、効率的かつ効果的な評価制度の必要性が指摘されている。「短期大学生調査」においては、すでに参加短期大学に対する様々な情報提供を行っており、調査結果の単純集計表、学科間比較、全体比較、全体集計結果の報告書の作成等が毎年なされている。これらの集計表を活用し、自己点検・自己評価や学内でのFD活動等を実施している短期大学もある一方で、特に定期的にデータを扱う者がいない場合は、十分に活用をされているとは言い難い状況にある。保育者養成課程については、これまでも見直しや改善はなされてきているが、2020年4月時点のCiNiiを用いた文献検索（検索ワード：保育 養成課程 評価）からは、個別の教育機関における個別の授業やプログラム評価を試みた事例は見られるが、養成課程全体を評価する研究は確認できなかった。なお、短期大学生調査を用いた研究としては、山崎・宮里による専門分野別の考察の意義を指摘した論稿（Yamazaki S. and Miyazato S., 2020）や、堺ら（2018）の地域別比較を検討したのが見られるが、本研究において試みる保育者養成課程の評価のためのベンチマークを提示するものは見られない。

現場の教職員に分かりやすいベンチマークを開発し、提示することが出来れば、短期大学の自己点検・自己評価活動をより良いものにするだけでなく、保育者養成課程の評価や改善にも資するものになると考えている。

2. 研究方法

本研究は、2015年度から2019年度の「短期大学生調査」の結果のうち、保育者養成課

程を持つ学科を対象としたものであり、その参加短期大学数や回答者数は以下の表1の通りである。

表1：研究対象の概要

年度	2015	2016	2017	2018	2019
回答者数	7978	8141	7551	8122	9267
短期大学数	44	42	39	47	58

短期大学生調査は、毎年およそ2万人程度の申込人数があり、保育者養成課程は最も大きな回答者数を持つ分野となっている。なお、表1の短期大学数について、重複を除き合計すると84短期大学であり、特定の短期大学に大きく偏る分布にはなっていない。

対象とする質問項目は、保育者養成課程の評価に資する観点から、学習経験と学習成果に関するものを選択している(表2)。学習経験に関する質問は、プレゼンやディスカッション、小テストや課題、教員による添削やコメント、授業に遅刻や欠席をしたなどの17項目から構成され、回答する短期大学生は、「まったくなかった(1)」、「あまりなかった(2)」、「ときどきあった(3)」、「よくあった(4)」の4件法により頻度を答えている。学習成果に関する質問は、22項目から構成され、一般的な教養や専門知識をはじめ、異文化理解、コミュニケーション、自学自習の習慣、粘り強さ、自己の理解、他の人と協力する力などであり、「大きく減った(1)」～「大きく増えた(5)」の5件法により回答されている項目である。

表2：研究対象とした質問項目の概要

大項目	質問項目	度数	平均値	標準偏差
学習経験	プレゼンテーションをする	40955	2.56	.809
	学生同士でディスカッションをする	40952	3.27	.725
	教員が提出物に添削やコメントをする	40978	2.92	.788
	文献や資料を集める	40947	2.56	.769
	図書館を利用する	40973	2.54	.860
	体験的な学習	40953	3.33	.754
	キャリアに関する教育	40901	2.52	.933
	定期的な小テスト	40946	2.97	.778
	宿題や課題	40963	3.23	.740
	提出期限までに宿題を完成できない	40963	1.98	.916
	授業をつまらなく感じた	40931	2.85	.768
	授業に遅刻や欠席をした	40970	2.32	.929
	授業で学んだ内容について学外の人と話す	40939	2.26	.917
	正解や答えのない問題や課題について考える	40926	2.76	.833
	レポートの書き方や文章表現を学ぶ	40965	2.88	.765
	パソコンなどの情報機器を使う	40981	3.02	.794
	外国語を使う	40916	2.21	.900
学習成果	一般的な教養	40925	3.72	.707
	専門分野や学科の知識	40941	4.25	.672
	論理的に考える力	40893	3.64	.670
	異なる文化や考えを持つ人々を理解する力	40919	3.71	.734
	リーダーシップ	40922	3.41	.731
	他の人と協力する力	40902	3.94	.759
	現代社会の抱える様々な問題を理解する力	40891	3.68	.705
	文章（レポートなど）を書く力	40919	3.78	.741
	本や資料などを読み解く力	40901	3.49	.687
	数値やデータを理解する力	40890	3.26	.686
	外国語を使う力	40877	3.02	.808
	コミュニケーション能力	40902	3.73	.758
	プレゼンテーションをする力	40900	3.44	.713
	PCなど情報機器を使う力	40889	3.58	.766
	自学自習の能力（習慣）	40883	3.29	.784
	挑戦する力（チャレンジ精神）	40900	3.68	.758
	ねばり強さ	40912	3.65	.763
計画性・スケジュール管理能力	40887	3.69	.763	
キャリア意識	40891	3.52	.707	
自己の理解	40889	3.63	.708	
地域や社会に貢献する意識	40886	3.57	.719	
選挙への関心	40861	3.22	.730	

これらの結果の全体平均値を中心に、基準範囲の考え方を参考とし、ベンチマークとなる基準値を示す。基準範囲は、医学分野において広く用いられており、日本臨床検査医学会のガイドラインでは以下のように定義されている。

基準範囲は、一定の基準を満たす健常者（基準個体）の検査値分布の中央の95% 区間として設定され、検査値を判断する基準（めやす）となる。しかし、正常・異常を区別したり、特定の病態の有無を判断する値ではない。

（日本臨床検査医学会，2018）

上記の95% 区間は、平均値 \pm 2 標準偏差に依拠するものであり、本研究も平均値と標準偏差を用いて基準範囲の設定を試みる。ただし、本研究においては、短期大学生からの間接評価に基づく調査結果を用いるため、身長体重や血液検査の結果のように直接評価によるデータと比べるとその厳密性は乏しいと言わざるを得ない。また、上記の定義に記されているように、あくまでも基準（めやす）となるものであることから、平均値 \pm 1 標準偏差内をベンチマークとなる基準値とし、平均値 \pm 1.5 標準偏差を現状の良し悪しを判断するめやすとする。ただし、学習経験や学習成果については、各養成機関による特性や個性があり、特に短期大学は基本的に2年間の課程しかなく、全ての経験や成果を獲得できるわけではない。したがって、単純な数値の良し悪しのみで実態を判断することはできず、各短期大学や養成課程の方針や教育目的に沿っているかどうかを、現場の教職員が確かめながらベンチマークを検討する必要がある。

なお、2 標準偏差（95%）ではなく、1.5 標準偏差を用いた理由としては、例えば今回の事例では84 短期大学のデータを用いており、95% はおよそ80 短期大学に相当し、大半の短期大学が基準範囲及び良し悪しのめやすに含まれることになる。その場合、各短期大学の現状や特徴的な項目を把握しづらくなるため、2 標準偏差を採用しなかった。

3. 研究結果

先の研究方法に基づき、学習経験に関する質問項目について、ベンチマークとなる基準範囲と、良し悪しのめやすを示したものが以下の図1 である。

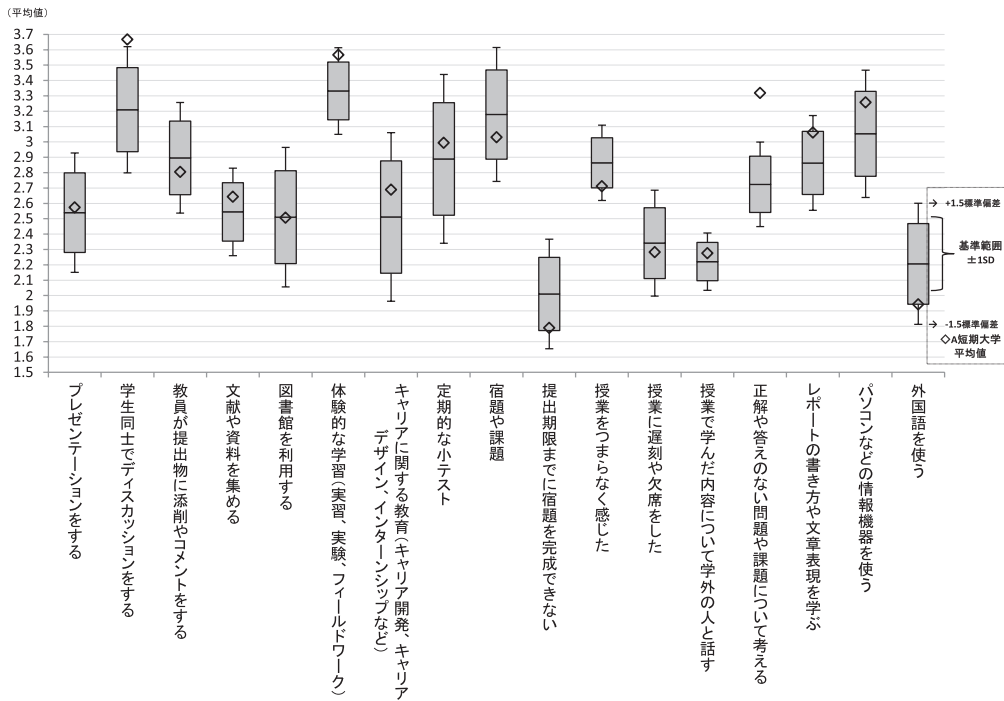


図1：学習経験に関する質問項目のベンチマーク

図1は学習経験に関する質問項目の標準的なベンチマークとした基準範囲(±1標準偏差、灰色部)と、良し悪しのめやす(±1.5標準偏差、最大及び最小部)を示すものである。◇A短期大学平均値は、実際に短期大学の現場の教職員が活用する場合の例として、実在しないデータを用い表している。基準範囲は、平均値を中心に±1標準偏差と設定し、68%の短期大学がこの範囲に収まることになる。良し悪しのめやす部分も含めると、86%の短期大学がこの範疇に該当する。

図1の見方としては、まず基準範囲に入る13項目については、特段大きな問題がない項目であると判断できる。全体と比べて経験頻度の高い項目としては、「体験的な学習」が挙げられ、良いめやすを超えて経験頻度の高い項目は「学生同士でディスカッションをする」と「正解や答えのない問題や課題について考える」である。特に、「正解や答えのない問題や課題について考える」については、良いめやすを大きく超えており、A短期大学の特徴的な学習経験であると言える。その一方で、「外国語を使う」については、わずかに基準範囲外に位置しており、仮にA短期大学として外国語教育に力を入れているとするのであれば、検討事項になりうる状態であることを示している。

図2は、学習成果に関する質問項目を示したものであり、基準範囲の設定等は先の図1と同様である。A短期大学の平均値を見ると、全ての項目において基準範囲か、それ以上となっており、基準範囲を下回る項目は見当たらない。基準範囲を上回る項目は、「一般

的な教養」や「専門分野や学科の知識」など14項目に及び、そのうちの「自己の理解」、「地域や社会に貢献する意識」、「選挙への関心」については、+1.5標準偏差を超えており、A短期大学の特徴的な学習成果として識別することが出来る。

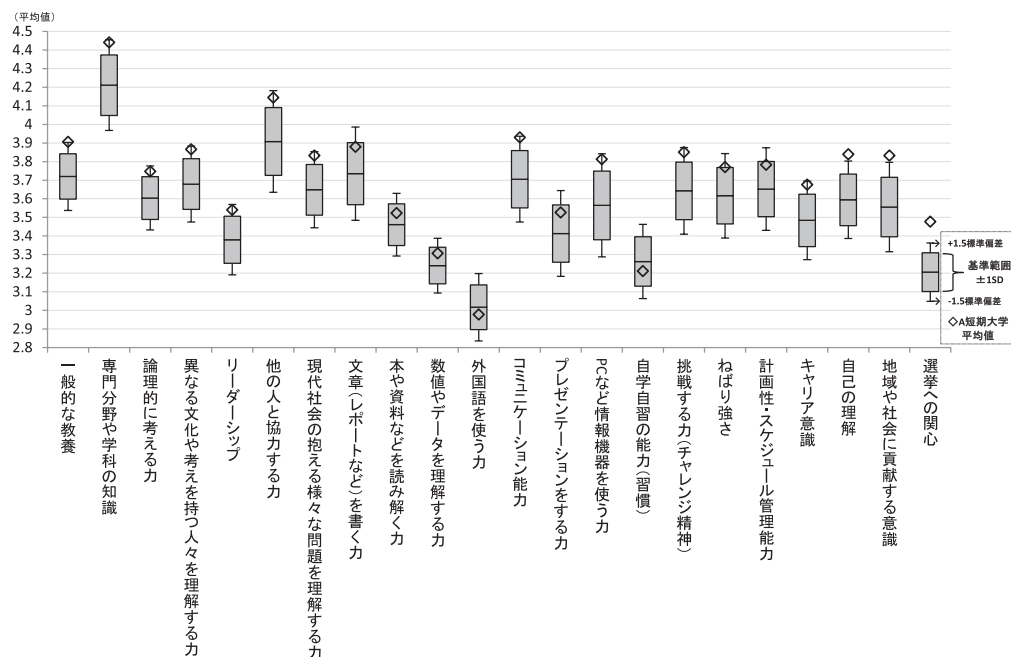


図2: 学習成果に関する質問項目のベンチマーク

4. 考察

図1と図2のベンチマークにより、統計表や数値を見ることなく、A短期大学の特徴を示すことを可能にした。また、全ての項目において基準範囲内かそれ以上となっており、A短期大学の教育方針やカリキュラムポリシーに沿った結果であれば、学習経験と学習成果については良好な短期大学と評価するのが妥当である。ただし、仮にA短期大学として目指している教育方法や成果と異なる箇所があれば、基準範囲内にも関わらず検討の余地があると言える。ここから言えることは、このベンチマークの使い方は、基準範囲はあくまでめやすとして用いるのみであり、ただ単に基準範囲を超えているか、下回っているかだけでは評価が出来ないことである。基準範囲を下回る項目があったとしても、短期大学教育は2年間という限られた時間で施されるものであり、昨今の保育者養成課程に求められるものの量を考えれば、そのすべてに応えることは難しく、各短期大学の特徴を活かしていく必要がある。また、意図せずに基準範囲を超えた項目があったとすれば、それは短期大学側が認識できていない特徴的な取り組みや成果である可能性を示唆しており、そ

の理由を検討していく価値があると考えられる。

5. おわりに

本研究の目的は、短期大学の保育者養成課程の評価と改善に資するベンチマーク指標を開発することであるが、これらが実際に短期大学の教職員に活用されなければ十分な意味をなさない。短期大学においては、四年制大学と比べて小規模傾向にあり、保育者養成課程をはじめとする人文社会系の学科が主たる構成要素である。そのため、短期大学や短期大学生の情報を収集・分析するインスティテューショナル・リサーチのような専門職を配置することは難しい状況である。また、統計解析や分析に詳しい人材が全ての短期大学にいるわけでもなく、より効率的かつ効果的な評価や改善活動を最小限のリソースで行う必要がある。その時、本論において示したようなベンチマーク指標は、これまでの研究とデータの蓄積によるいわゆるエビデンスに基づく結果をもとにしつつ、数値や統計的な理解をせずとも、基準範囲のめやすを中心に直感的に短期大学の保育者養成課程の状況を考えることを可能にするものである。

近年、こうした大規模データの活用により、教育機関やプログラムのランキングや順位付けが行われ、大学関係者はその結果に右往左往している。しかし、本研究で示したベンチマーク指標はめやすに過ぎず、基準範囲を上回っているか、下回っているかだけでは意味をなさず、その短期大学の保育者養成課程の目指す教育の在り方とともに常に検討をされるものである。そのため、平均値の比較は形式上可能であるものの、そのランク付けは意味をなさず、データを見る現場の教職員の保育者養成課程に対する理念や価値観に基づいた考察がなされなければならない。したがって、このベンチマーク指標を用いることによって、各短期大学の保育者養成課程の状況を把握し、必要に応じて改善を検討するという、自己点検・自己評価の本来の目的を達成することが可能になる。

本研究開発の最終的な目的は、短期大学の保育者養成課程の評価と改善に資することであり、現場の教職員による短期大学生調査の活用を支えることにある。そのため、今後は短期大学生調査参加校への提供等を通じ、このベンチマーク指標が実感に沿うものであり、現状把握や改善に資するものであるかを確認していく必要がある。また、本論においては学習経験と学習成果に焦点をあてて考察を試みたが、短期大学生調査の質問項目は、進学理由や志望動機、施設や教育の満足度、学習時間などもあり、これらについても同様の検証を進めていかなければならない。これらの課題については、今後の研究課題とする。

謝辞

本研究の遂行にあたり、一般財団法人大学・短期大学基準協会の事業である「短期大学生調査」の結果を、同協会調査研究委員会研究協力者として研究利用させて頂きました。一般財団法人大学・短期大学基準協会調査研究委員会ならびに、「短期大学生調査」へご

協力を頂いた短期大学生をはじめとする短期大学関係者の皆様に御礼申し上げます。

付記

本研究は JSPS 科研費 JP18K13194 (Grant-in-Aid for Early-Career Scientists) の助成を受けたものである。

引用文献

- (1) 保育士養成課程等検討会 [2017] 『保育士養成課程等の見直しについて～より実践力のある保育士の養成に向けて～ (検討の整理)』。
- (2) 中央教育審議会大学分科会 [2016] 『認証評価制度の充実に向けて (審議まとめ)』。
- (3) Yamazaki, S. & Miyazato, S. [2020] *The Validity of Setting a Benchmark Standard Based on Academic Fields in the Indirect-Student Survey for Quality Assurance in Japan*. *International Journal for Cross-Disciplinary Subjects in Education*. 11 (1). 4189-4195.
- (4) 堺完・山崎慎一・黄海玉 [2018] 「短大生調査を用いた短大の自己点検・自己評価に資する地域別比較の検討」『短期大学コンソーシアム九州紀要』 Vol.6, pp.21-29.
- (5) 日本臨床検査医学会 [2019] 『基準範囲・臨床判断値. 臨床検査のガイドライン』, JSLM2018, pp.12-22.